

波の彼方に どんなロマンを 見たのだろう、 彼らは。

海外との文化交流史に、

大きな足跡を残す慶長遣欧使節団。

支倉常長ら一行180余名が

イスパニア、ローマをめざし、

日本を出帆したのは

慶長18年（1613年）9月のことでした。

まだ未熟な航海技術。

わずか500トンの木造船。

行く手をはばむ幾多の暴風雨。

それでも、彼らを航海に

かりたてたものは何だったのか。

私たちに夢と勇気を与えてくれる海。

計り知れない恩恵をもたらす海。

日本財団は、この海への思いを

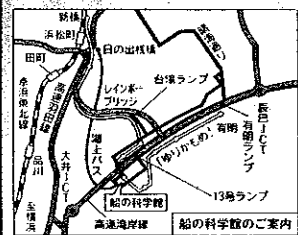
生かし続けていきたいと考えています。

海と出会う。
サン・ファン・パウティスタ号
東京みなと祭へ。

臨海副都心「船の科学館」前横濱にて

5月30日(木)まで

サン・ファン・パウティスタ号は、伊達政宗がヨーロッパに
使節団を派遣するために建造した外洋航海型の帆船です。
その造船技術は、当時世界の
トップレベルのものだといわれています。
現在、船の科学館前横濱に奉蔵しているこの本復元船は、
今世紀最良で最大のものと評価されています。
どうぞ、この機会に船の文化遺産をご覧ください。



●船の科学館内「ゆりかご」……本館上りの船の科学館
●船の科学館内「ゆりかご」……本館上りの船の科学館
●船の科学館内「ゆりかご」……本館上りの船の科学館
●船の科学館内「ゆりかご」……本館上りの船の科学館
●船の科学館内「ゆりかご」……本館上りの船の科学館
●船の科学館内「ゆりかご」……本館上りの船の科学館
●船の科学館内「ゆりかご」……本館上りの船の科学館
●船の科学館内「ゆりかご」……本館上りの船の科学館
●船の科学館内「ゆりかご」……本館上りの船の科学館
●船の科学館内「ゆりかご」……本館上りの船の科学館

日本財団
The Nippon Foundation

（財）日本船政振興会の新しい呼び名です。
財団の船政振興活動は、日本船政振興会の前身である

*このサン・ファン・パウティスタ号は宮城県、仙台市、石巻市等県内自治体や日本財団、民間企業の助成、県民の募金により復元されたものです

